# (「あなたのお仕事は？」)「サラリーマンです。」は現代の「鎧(よろい)的表現」

奥田　寛

## 0：はじめに

「士農工商」という身分制度があった江戸時代は、とりわけ「服装」を見ればその人の身分、職業が大方わかった。戦後でも、「ホワイトカラー」と「ブルーカラー」の職業の違いは、服装である程度の察しがついた。しかし、現在電車に乗って通勤した場合、服装から人々の職業を言い当てることは至難の業である。あるテレビ番組の中でのインタヴューで「お仕事は？」と聞かれたその人は「教えています。」と答え、さらに聞かれて「小学校の先生です。」と答えていた。筆者も同じ質問を受ければ、おそらく「学校関係です／教育関係です。」と答えるだろう。そのような答え方は、どのような心理に基づいてなされるのか。また、その言い方が、現代の日本のどのような風潮を反映したものか、本稿で少し考えてみたい。

## 1：心理的仮説及び検討資料

人に職業を聞かれた場合、どのように答えるのか？警察官の聞き取りでは、市民の義務として勿論正直に答える。また、独身の男性であれば、結婚相手の両親には、具体的に職業、さらにはその仕事の内容、給料について積極的、かつ詳細に話すだろう。

以下、筆者の内省を通じて「仮説」として、「「勧誘員」が『あなたのお仕事は？』と聞かれて、「外勤事務です。」と答えた場合の「心理」とは、何に基づくのか、以下に幾つか挙げておく。

① 近所の人の『「どちらへお出かけ？」、「ちょっとそこまで。」』式の挨拶に類似し、相手を無視はしないが、具体的かつ詳細に相手に答える必要がないという心理

② 自分の具体的な職業を相手におしえ、それで社会的評価をされたくないという心理

③ 相手と、より親密にコミュニケーションを取りたくないという「相手忌避」の心理[注1]

「インターネット」のウェブ上で『仕事を聞かれたら？』というキー・センテンスを「検索欄」に入れて検索すると数多くの「答え」がヒットする。世間には、自分の、親の、あるいは配偶者の仕事を聞かれた場合、どのように答えればよいのか悩んでいる人が意外と多く存在することがわかる。

本稿では、ウェブ上での「やり取り」の例をいくつか取り上げて「日本人の、現代日本社会を生きる上での相手との距離の置き方に腐心する心理・態度」を少し炙り出してみたい。

## 2．ウェブ上の実例[注2]

(1) 「銀行員」→「会社員」

問い：ママ友に夫の職業を聞かれたら正直に答えますか？うちはまだ子供が赤ちゃんなのでママ友はいないんですが、今後幼稚園に入った時のために教えてください。

夫は銀行員の平社員です。世間で言われているほどたくさんお給料をもらっているわけではなく「贅沢をしていないので専業主婦でも生活できている」だけなんです。節約だってしています。それなのに友人から「お給料がいいから専業主婦でも暮らしていけるんだよね、いいよね～」と嫌味っぽく言われたこともあります。

そういったこともあり、今後幼稚園などに入って「パパは何のお仕事をしてるの？」とママ友に聞かれたら「うん、会社員だよ」と答えるつもりなのですが、中には根掘り葉掘り聞きたがる人っていますよね？そういう人に遭遇した時にどう答えたらいいものかと考えます。社宅に住んでいるのでばれる可能性は大なのですが(笑)

みなさんはご主人のお仕事のことなど、ママ友に聞かれた場合どう答えていますか？（sweetbaby9242）

答え：根掘り葉掘りきかれたら、質問に答えずに同じ質問を返してみてはいかがですか？そういうことをきくひとにかぎって、自分のことはいいたくない人が多いので、きいてこなくなりますよ。なかよしの信頼できる人には話しますが。（hanehane0826）

（http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1419293769）

この「回答」の中に「なかよしの信頼できる人には話します。」とあるよう

(「あなたのお仕事は？」)「サラリーマンです。」は現代の「鎧(よろい)的表現」

に相手との「心理的距離」を基準として、特に初対面の相手には、相手に対する警戒心や嫉妬心回避から「会社員」と答えることが知れる。

(2)　「小物類のハンドメイド品制作」→「小物作家、雑貨作家」

問い：「小物類のハンドメイド品を、オークションなどでひっそりと出品しています。いつかはネットショップを開けたら♪という夢があり、就職難の中、これが一番自分に合う仕事だ‥というものを見つけられて良かったと思っています！！

ただ、久しぶりに会った知人に「今、どこに勤めているの？」なんて聞かれる

と一言で説明できず、毎回しどろもどろになってしまいます（苦笑）

【ハンドメイド】という言葉が浸透していない地域？にいるため、それを説明するのも面倒だし、【作家】というのはおこがましすぎます^^;

ハンドメイドでパート以上の収入を得ている方もいらっしゃると思います！そんな皆さんは、職業を聞かれた時、どんな風に答えていらっしゃいますか。

答え①：近所＆親戚用には「家で縫い物の内職してます」とどんなに説明してもその相手が他の人に説明する時は『なんかおうちで縫い物の“内職みたいなこと”やってるらしい』になってしまうので、もうメンドクサイだけで…（笑）ネットショップも常設しています、イベントのディーラー参加、講師もやります、雑誌掲載歴もそれなりにあり、出版社からは『センセイ』と呼ばれてはいますが、こういうセンセイはゴロゴロいるでしょう。「作家」を名乗るのに気後れするのでしたら肩書きをメインのアイテム名などを冠して「○○制作」とだけするのもいいですよ。私の営業用名刺はコレに作品画像付です。自分では手芸作家の端くれだと思ってますけどさすがに肩書きには恥ずかしいので。(terepoisi、回答日時：2008/07/0714:13)　(http://oshiete.goo.ne.jp/qa/4155112.html)

答え②：うーん、まだショップも開いていないんですよね。個人で確定申告するほどの収入があるのなら、なにかしら職業名がいりますが、オークションにひっそりと出品する程度なら、趣味程度だと思うのですが…ちゃんとしたものを自信を持って販売しているのなら、堂々と作家を名乗ってもいいと思います。私の友人にも趣味のキルトを販売するようになってからは、名刺には「キルト作家」と入れています。質問者様は小物作家、雑貨作家などでいいと思います。(shiranxx、回答日時：2008/07

/07 11:28）

（http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1098689180）

ここでは質問者が自分に仕事に対して気おくれしている場合の悩み相談である。「確定申告」の職業欄や名刺を作成するときには職業明記が必要となる。「答え②」のように質問者が仕事に対して、より自信を持つ意味で「作家」と名乗るように勧めている。これは、（1）の「銀行員」を「サラリーマン」と答える例の逆パターンで「作家」と名乗ることで自分の持っている能力を明確に世間に表明すべきだ、という意見である。特にマスコミでは、「～研究家」「～評論家」などという肩書きがよく見られるが、具体的に言い表すことで本人の研鑽、研究への励みや自信につながる可能性は大きい。また「“評論家”という肩書きは自称に過ぎない。」(注3) ということであれば、「～作家」を名乗ることも許される。

ても、堂々と会社員（あるいは業種、職種）と答えましょう。

(3) 「フリーター」→「会社員」、「サラリーマン」

問い：いい齢して、職業を聞かれて、フリーターと名乗るのは恥ずかしい。

答え：フリーターという言葉は、アルバイト雑誌の編集者が勝手に作った言葉なので、職業を表すために使う必要はありません。職業を聞かれたら、フリーターとは答えず、「会社員」、「サラリーマン」、あるいは業種（小売業、製造業など）や職種（店員、警備員など）などで答えましょう。バイトとはいえ、会社に属して賃金をもらっている以上、立派な会社員であり、サラリーマンなのです。警官に職業を聞かれても、堂々と会社員（あるいは業種、職種）と答えましょう。

（http://blog.livedoor.jp/agagagagagaga/archives/29228.html）

ここでは「サラリーマン」という答え方が、「給料」を得て生活をしている限り、間違いのない「万能的答え」として推奨されている。

(4) 「弁護士」→「自営」

問い：夫が弁護士だと言いたくない。

答え①：「夫が弁護士で独立開業しています、大学院時代からの付き合いです。私の場合、夫の職業を聞かれると、親しい人以外「自営」、しつこく聞かれれば、「あまり言いたくないので、すみません」と断ります。私が言いたくない理由は、困ったさんとは違って、身を守るためです。

ご存知かと思いますが、職業柄、依頼者の相手方等に恨まれたり、暴力団を相手にすることもあります。どこでどうつながって情報が漏れるかわからないので、なるべく言わないようにしています。身の危険を感じることに比べれば、周りの人たちから色々言われることは（「玉の輿に乗ったよね」とか言われたこと、私もあります。）、あまり気にしていません。まあ、面倒くさいなとは思いますが、「そうですね～。」と軽く受け流します。後、法律相談ですけど、相手のためにも、ちゃんとお金は取った方がいいです。タダで話を聞いてもらおうと思っている人ほど、自分の抱えている問題に真剣に向き合っていない方が多いです。相談料を払ってもらう事で、ちゃんとトラブルと向き合ってもらうという意味があります。お互いがんばりましょう！日本人って平均より外れると色々言われるものです。

このご時世安定した専門職の夫がいるというだけで嫉妬される可能性が一般のサラリーマンよりもぐんと上がります。普通の所得の人も無職から見ればいいなと思われる対象かもしれませんがそれ以上に弁護士や医師などはいいなだけじゃなくその家族という立場は妬まれる対象になりえます。

答え②：パート関係の方で、同じパート仲間（大体主婦）の旦那の職業を無理矢理聞き出しては利用しようとするオバサンが居ました。イベント関係の方には「○○（大物アーティスト）のチケットがさぁ」IT 関係なら「最近ウチのパソコンの調子がさぁ」って具合に図々しい。で、新入りの女性の奥様が弁護士でした。これはとってもマズいぞ、って思ってました。案の上そのオバサンが「そうそうウチの娘がさぁ・・」って言い出した途端「あ、ご相談は30分5000円からで主人が承っております。これ事務所の名刺です。娘さんの秘密はキチンと守りますので安心してご相談ください」ってニッコリちゃっかり営業かけてました。後日しつこくオバサンが「あなたがちょっと聞いてくれればいいのよー」って食い下がっても「弁護士には守秘義務もございます。私が承るわけには参りません。ご相談は主人が30分5000円からで（以下略）」って（笑）しっかりしてんなー、多分そういうの慣れてるんだろうな、って思いました。

（http://komachi.yomiuri.co.jp/t/2012/1119/555385.htm?o=0&p=6）

ここでの「他人の仕事を聞き出し、できれば利用したい」という「ちゃっか

り屋」がいる、という意見には、かなりの説得性がある。また、井戸端会議や飲み屋での他人の噂話のネタにされる事も大いにあり得る。現代のわれわれは、そのような「社会的枠組みから逃れたい」という心理傾向が、以上ウェブ上から紹介した「問い」、「答え」から読み取れるのではないか。「弁護士です。」と開き直って紹介し、営業することも、また「自営業です。」という答え方で済ませるのも結局、自身の、相手に対する「信頼度」によってい異なるのかもしれない。

## 3.「サラリーマン」／「自営業」と「量(かさ)し度」

われわれは、《「サラリーマンです。」—「外勤事務です。」—「勧誘員です。」》という職業の、どの答え方を選択するか。「サラリーマンです。」という答え方は、汎用性が高いものの、相手に対する「量し度」が一番強く、「外勤事務です。」は、「量し度」においてはやや劣り、「勧誘員です。」は、「量し度」がゼロとなる。「量し度」が強い「サラリーマンです。」という言い方は、答え手の心理としては暗に相手を遠ざけるという心理の表れのように思われる。

「弁護士」の場合

・答え手の相手方に対する「量(ぼか)し度」

「自営業です。」 〉「法務関係です。」 〉「弁護士です。」

・答え手の相手方に対する「親近度」

「自営業です。」〈「法務関係です。」〈 「弁護士です。」

「勧誘員」の場合

・答え手の相手方に対する「量(ぼか)し度」

「サラリーマンです。」 〉「外勤事務です。」 〉「勧誘員です。」

・答え手の相手方に対する「親近度」

「サラリーマンです。」〈「外勤事務です。」〈「勧誘員です。」

## 4. まとめ

現在、われわれの日常生活において、厚生労働省の取り決めている『職業分類表』の「大分類」を「対人距離を測る指標」（バロメータ、barometer）とみなした場合、「隠れ蓑的な物言い」となり得る。対極の「細分類」は、相手に対する警戒心のなさ、親近感の表れ、仕事に対する誇り、自信の表明、また相手を信頼している場合に使用されるのではないか。

日本人は、初対面の人間同士、相手を社会の中での「組織」という枠組みや

（「あなたのお仕事は？」）「サラリーマンです。」は現代の「鎧的表現」

「職業」という社会的レッテルという枠組みで捉えようとし、それが明確でなければ「正体不明」の人間として仲間内に受け入れようとしない、という傾向が強い。「大分類」的答え方では、そのような印象を相手に与える可能性が大きい。自分の職業を『職業分類表』の「大分類、中分類、小分類、細分類」のどの立ち位置で表現するかは、その場、その時での相手との「心理的距離」の取り方で変わり、「大分類―中分類―小分類―細分類」の間を左右に揺れ動く日本人の姿が浮かび上がってくる。現在社会に生きるわれわれは、この見極めで苦労する。井上ひさしは、「～さん」を「鎧」に例えて次のように述べる。

> 「（しかしその）敬語も、尊敬や謙譲さや丁寧さをあらわしているうちはいいのですが、度をすぎると、よそよそしくなり、やがて敬遠の意味を持ちはじめます。過剰な敬語を防壁にして、相手を敬遠する。交際にどっさり敬語を持ち込んで相手との関係に熱が生まれないようにする。あいてとつきあう必要があるが、あまり深間の仲になりたくない。「さん」は、敬称としてはささやかではありますが、この「あまり深くつきあいたくない」という今の世の中をよく象徴していると思います。「さん」は二十世紀末の人々の鎧なのかもしれません。」(注4)

『職業分類表』の「大分類」、「中分類」は、井上ひさしが言う「～さん」と同様「小分類」と比較して「敬遠語」の一種として現代のわれわれは生活しているように思われる。

注

(1) 最近、職場、学校などで人にあいさつをしても、返ってこない、また、人からあいさつをされることもめっきり少なくなった、とある本に書かれていた。そのような人々が増加している理由として、同書では「他人を避ける、あるいは自分の方から関わりたくない」という「内向き」の人間が増えてきたのではないか、と分析していた。職業をこと細かく相手に教えたくないという心理も、上述した相手との「関わり」を避ける心理と overlap しているように思われる。

(2) ウェブ上からの検索例の日本語は、原文のまま転載してある。

(3) 『ウイキペディア百科事典』「評論家」の項を参照。
http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A9%95%E8%AB%96%E5%AE%B6

(4) 井上ひさし P.184。

## 引用文献

(1) 井上ひさし『井上ひさしの日本語相談』新潮文庫、新潮社、平成23年10月
(2) 『職業分類表』厚生労働省　平成24年３月改訂
(3) http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1419293769
(4) http://oshiete.goo.ne.jp/qa/4155112.html)
(5) http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1098689180
(6) http://blog.livedoor.jp/agagagagagaga/archives/29228.html
(7) http://komachi.yomiuri.co.jp/t/2012/1119/555385.htm?o=0&p=6
(http://www.kochinet.ed.jp/shutaikyo/yoshiki/shokugyo(H24.3). pdf#search='%E5%8E%9A%E7%94%9F%E5%8A%B4%E5%83%8D%E7%9C%81%E3%81%AE%E6%A5%AD%E7%A8%AE%E5%88%86%E9%A1%9E')

## 参考文献

(1) 中根千枝『タテ社会の人間関係』講談社現代新書、1967年２月

# About “(「あなたのお仕事は？」)「サラリーマンです。」”

Hiroshi OKUDA

**提要**

在日语里，当被问及职业时，常见的一种回答方式是：(「あなたのお仕事は？」「サラリーマンです。」。这种回答问题的方式（里）蕴含着一种倾向，即在现代一般日本人的心理上，不愿意在日常交际中将自己的“内面”（如自己的职业名称及内容）向别人公开，这为只有这样似乎才能在社会上保护自己的安全和利益并避开各种烦扰。

在本文里，笔者从 WEB 上搜集了几个相关的例子，并围绕这些实例进行了一些探讨。本文得出的结论认为：上述这种回答问题的方式实际上是一种带着“现代的甲胄”色彩的表现。